

令和4年度 第2回 学校運営協議会まとめ

大阪府立泉北高等支援学校

- 【1】 実施日時 令和4年11月11日（金）午後3時30分～午後5時
- 【2】 実施場所 本校応接室
- 【3】 出席委員 早川 泰史氏（堺市相談支援センター事務局長）
樋上 一真氏（堺市障害者就業・生活支援センター所長）
徳 和則氏（堺市立上神谷支援学校校長）
小山 恭子氏（大阪府立泉北高等支援学校 PTA 会長）

【4】 内 容

① 開会(教頭)

配布資料を確認

② 校長挨拶

本校講師の不祥事についての報告とお詫び

③ 委員自己紹介

④ 会長挨拶（会長代理 早川様）

⑤ 協議

協議に先立ち、校長より、本校講師の不祥事についての経緯説明を実施した。
保護者説明会資料を配布し、事案の概要説明とお詫びを行った。

(1) 「令和4年度学校経営計画」進捗状況等について

校長より「令和4年度学校経営計画」進捗状況を説明。

中期的目標について

- 1 生活自立コース、社会自立コース、就労支援コースの教育課程等の充実を図る。

(1) 教育課程委員会を中心に昨年度より議論を進めてきた。次年度からは「職業」の授業時数を1コマ増やしていく。ビジネスマナーを中心とした座学を行う。働く観点やモチベーションをあげていく。体育の授業時数の整理、HRの活用、総合的な探究についても確認をしている。次年度の枠組みとして定まってきている。

大阪府の初任者研修会の会場校となり、2名の初任者が研究授業を実施した。学校全体で共有し、さらに研究をしていく。アクティブラーニングについての研修、授業力アップに取り組んでいく。

(2) シラバスについて整理を進めている。各授業で生かせるように取り組

んでいく。

- (3) リーディングスタッフによる校内研修を3回実施する。2回が実施済みである。校内支援がより充実するように進めている。今年度は堺西高校との交流も再開した。

2 支援教育力の向上

- (1) 学期ごとに自立活動の実践報告を実施した。校内で共有し、支援につなげる。初任者や経験年数の少ない教員にフィードバックしていく。性に関する指導委員会を中心に、学年、グループの実践のライブラリ化を進めている。
- (2) 校内のコーディネーターとリーディングスタッフを中心とした情報共有会議を定例化した。個別のケース会議を活発にし、教員の専門性の向上にもつなげていく。また、外部講師を招いたエンパワメント研修を実施した。
- (3) 情報文化部による、情報研修を定期的実施している。教員、生徒ともに、ICTのスキルの共有や伝達を行いながら進めている。

3 安心で安全な学校環境づくり

- (1) いじめ防止、多様性を認め合う学習について、先日、実施したところである。HRの時間をどのように活用していくのか、いろどりのあるものにしていく。
- (2) 夏季休業中に、防犯研修を行った。PTAの防災対策チームの皆さんご指摘をいただき、防災備蓄品の保管状況について見直しをしているところである。防災PTを立ち上げ、12月より動いていく。
- (3) いじめ防止アンケートを実施した。大きなものはなかったが、アンケートを契機に、個別の対応につなげていく。いじめ防止対策委員会も開催し、早期に個別の支援に切り替え、安心できる支援につなげていく。保護者の皆様の情報提供も頂き、教師の気づきと合わせてしっかりと取り組んでいく。

4 校務の効率化と働き方改革の推進

- (1) 教育課程を改編しながら、チームティーチングの体制を確立する。分掌業務についても、校務検討委員会を中心に次年度の体制について協議していく。一部の教員に、長時間勤務がある。水曜日の定時退勤日には、全員が退勤できるように啓発し、仕事のリズムづくりをしていく。

PTA 役員の皆さんには相談済みであるが、乗車時間の短縮や、近隣からの苦情対応のため通学バスコースの簡素化を進めていく。

- 意見
- ・保護者の方から、多くのご意見を伺ってきている。10月に実施された教職員のエンパワメント研修を、毎年定期的にも実施してほしい。また、先生方の感想や、研修内容などを保護者にむけて発信してほしい。
 - ・教職員の個人の携帯電話の所持については職員室から持ち出さず、必要であれば、学校所有のものを各教室に1台置くなどにしてはどうか。緊急時の対応（緊急地震速報やJアラートなど）があり、職員室から持ち出す必要がどうしてもあり、ないと困るのであれば、何に使用するのかを明らかにしてほしい。
 - ・身近な問題であり、様々な意見があるかと思う。予算面もあるが、合理的で安全な方向で考えていただきたい。小・中学校では児童生徒自身が携帯電話を持ち込み可としているところもある。何が1番よいのか、教育委員会にも働きかけしていただく。
 - ・上神谷支援学校では福祉避難所の状況について、8月下旬に南区と堺市危機管理室等が集まり、概要の説明があった。具体的な事柄はまだ動いてはいない。運営は学校でないことは確認している。発災時は、まず、一時避難所から開所される。福祉避難所は二時的に開く。誰が一時避難所から二時避難所に来るのか。高齢者や障がいのある方が含まれている。その他は具体的には動いていない。
 - ・災害援護者のリストはある。地域の民生委員などがリストを持っている。発災すぐは地域の力を借りざるを得ない。堺市では一時避難所を開設する職員は決まっている。
 - ・福祉避難所には、誰がくるかということは明確になっていない。一時避難所に行く行政の職員も変わっていく、行政の職員も、地域在住の職員が行くことにはなっていない。地域のことがわからない人が来る。多様な対応、ペットなどの対応も含め、様々な課題がある。畳のある部屋が活用されることもある。進んではいるが、自宅から避難したくないという方もいると聞く。
 - ・新たな教育課程で「職業」の座学の時間を増やすとのこと。数年前に生徒さんにビジネスマナー講座をしていた。現在は学校でやっていただくことが多い。働く機会に触れる、広がっていくことにつながる。働いた経験がない中で、座学をしていくことはよい。実行していくことは難しい。体験を増やして、やれた自信を育てていくことで両輪で

できるとよい。成功体験を重ねながら育ててほしい。SSTのようなこともやってみて、接客の対応なども実際にやってみる。うまくできた生徒さんは表情が柔らかくなり実習に活かせたという例もある。やってみて知ること大切であると感じている。就労移行の事業所では、VRで体験をしているという事例を聞き、非常に驚いた。ICTがそこまで進んでいる。SNS上でのトラブルや詐欺被害など、危険性も高い。危険性も学んでほしいと感じる。

- ・18歳成人になり消費者教育など、授業の中でもやっているかと思う。ひきこもりなど、自宅から出られない人にはVRなどはアイテムとして強い。子どもたちはゲーム感覚で身につけている。便利なものは諸刃の剣であることも知ってほしい。情報機器を持つときは注意喚起してほしい。子どもから家庭内に知識を与えることもある。

(2) 学校教育自己診断について

- ・12月1日から2週間、生徒・保護者・教職員の3者に学校教育自己診断アンケートを実施する予定である。結果については、次回の学校運営協議会でご報告する。
- ・教育に振り返りを生かしていただきたい。昨年度の結果をみると、教職員の値が低い。多忙感があるのかと思う。次年度の取り組みへの目標の資料になると思う。気になるところは保護者の皆様にも実のところを書いていただくほうが学校のためになる。

(3) その他

- ・意見箱、校長Dメールには意見はなしと教頭より報告。
- ・保護者からの要望を聞いているのでお伝えする。まず、学校ブログについて、忙しいかとは思いますが、給食のメニューだけでも掲載してほしいとの要望があった。見ていて楽しいホームページにしてほしい。個人情報の保護について、厳しいことは理解しているが、手元だけや後方から撮影するなど、普段の学校の様子も掲載してほしい。ぜひがんばってもらいたい。また、同性介助の徹底を再度お願いしたい。→学校でもご意見を伺っている。できる限り更新できるよう努める。同性介助についても引き続き、徹底していく。
- ・コンプライアンスもあり、人によって違う。場合によってはハラスメントになることもある。難しいことであろうかと思う。大変かと思うが、何日か間隔でもよい。保護者としては、学校の中でどのように過ごしているのか知りたいのだろう。見ることで安心なのではないか。

大変かと思うが、お願いしたい。

まとめ

- ・社会性を養う、社会に出てからのことを学習することは大切である。1人で生活していく、社会に出てどうなるかという学習を大切にしてください。社会性が大切である。ぜひ進めていただきたい。先生方の業務については、スクラップアンドビルドをしながら、省けることは省き、学校教育自己診断アンケートが高い値になるようにしてもらいたい。人的支援が、充実しているか、どこもたりない現状があるが、処遇改善の必要性もある。若い人が、その職につきたくなと思わない処遇改善をしてほしい。職務の改善をしていくことで普段のストレスが軽減されるといいと思う。学校がうまくいって、生徒が社会に出るための基礎的なスキルを身に付けられるよう、協力していきたい。

⑥校長より謝辞

⑦次回日程について 2月を予定